



公益財団法人SAJ

# SAJ Farm 通信

vol.30  
2013年 1月号

公益財団法人  
School Aid Japan

〒144-0043

東京都大田区羽田 1-1-3

TEL: 03-5737-2773

FAX: 03-5737-2793

<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

## 2013年を迎えて

私たちは、雨季の間に2回稲を栽培することを2012年度の目標にしていました。1作ごとに増収できるような水田作りをする。そのためには水稲にとって生育のしやすいこのカンボジアの気温を利用することと、土作りをしっかりとすることが重要になってきます。

今年度雨季2作目の稲刈りを1月17日にワタミグループの社員の方々と行ないました。カンボジア視察ツアーで農場を訪れた皆様には稲刈りをさせていただきました。稲刈りは初めてという方が多かったようですが、鎌を手に一心不乱に作業に打ち込んでいたことが印象的です。

収穫していただいた稲を脱穀し、脱穀されたモミを天日で乾燥させ計量をしたところ、今回の雨季2作目は10アール当たり約100kgの収穫量でした。カンボジアの標準的な収穫量は10アール当たり200kg程、同じ水田で収穫した前作の雨季1作目の稲は10アール当たり約230kgですので、著しく差が広がってしまったことになります。

同じ雨季に栽培をしたわけですが1作目と2作目の収穫量の差異の原因は未だハッキリと解明できていません。水、肥料、栽培時期、栽培中の気温などあらゆる角度から原因となる事を見つけ、来季の収穫量アップにつながるようにしたいと思います。



ワタミグループの社員の方々が稲刈りをしている様子です。  
社員のみなさん、ありがとうございました

また、稲と並行して必ず成功させなければならない取り組みがあります。

1. レモングラスの日本への出荷
2. レモングラスの栽培維持
3. ニワトリの増羽と管理

この3つです。

一つ目の取り組みはレモングラスの日本への出荷です。今後は毎月出荷をすることになっています。初回は11月にレモングラスを刈り、12月に約100kgを出荷し、2回目は12月に刈り、1月に約200kgの出荷を行いました。昨年11月末には内閣府より収益事業の認定も受け、私たちは今後農作物の出荷によって収入を得ていくこととなります。これには多くの方の助けがあって初めてできているということを忘れてはいけません。そのことを胸に出荷を継続していきます。これを達成するためには、人員の確保が不可欠です。そこで私たちと働いてくれる現地の方の募集を始めました。これは私たちSAJ Farmの目的のひとつでもある雇用創出の第一歩となります。

二つ目の取り組みはレモングラスの栽培維持です。

レモングラスを出荷するまでの工程は ①レモングラスを収穫 ②収穫したレモングラスの葉

の良し悪しを選別 ③天日の下で乾燥 ④乾燥後のレモングラスを裁断機を用いて 1 センチ幅に裁断、というような作業を行います。

選別から出荷を安定して続けていくためには、レモングラスが常に収穫できるような状態でなければなりません。特に乾季のこの時期は水が必要になってきますし、収穫を繰り返すことから肥料を入れていく必要があります。そのため灌水設備を整えることと肥料作りが重要な課題となってきます。

最後に、ニワトリの増羽と管理ですが、循環型農業の仕組みの中で家畜の糞尿は大事な要素です。しかし今までニワトリを増やすことができなかったことから、外部から鶏糞を購入していました。このようなことがいつまでも続いていたのではお金ばかりかかる農業になってしまいます。雨季の間にも何回か雛が孵ることもありましたが、小さな水たまりで溺れてしまったり、病気などで死んでしまうことからなかなか増やすことができていません。

しかし、1 月に入り短期間で、33 羽というたくさんの雛が孵りました。これらの雛は今のところ順調に生育しています。雨季の時とは違い、雨水が吹き込んだり、水たまりになることがないためだと考えています。

このように順調に孵化をしてくれることはよいことなのですが、ニワトリが増えるに伴いニワトリ小屋の床面積を広げる必要が出てきました。

約 13 ヘクタールもある農場ですので、他にもやらなければならないことがたくさんありますが、今はこの 3 つの取り組みをやり遂げることで次のステップがより明確になると考えています。

今回は最後に皆様にご報告とお礼をさせていただきます。

昨年の 10 月下旬から始まった SAJ Farm 宿舍の建設が 1 月 1 日に完了しました。農場の外から見ても重厚感のある素晴らしい建物です。1 階部分は作業ができるようなスペースと収穫したお米などを保管する倉庫となっており、2 階部分には日本人スタッフと農場の管理人さん家族のための部屋、そして事務所があります。住居に隣接してトイレも作っていただきました。日本人スタッフも 2 月に引っ越し、住まわせていただくことを予定しています。

今までも農場にほど近いところに住んでいましたが、住居を建てていただいたことで作物やニワトリの管理に一層力をいれていくことができます。

ありがとうございました。



孵ったばかりの雛は常に親鳥と行動を共にします。



1 階は作業場と倉庫。2 階には 4 つの部屋があり、この建物の裏側にはトイレがあります。

## 編集後記

明けましておめでとうございます。私たちの農場も 2013 年 5 月で開設してから 3 年となります。

皆様のおかげで昨年末からレモングラスを出荷するまでになり、水稻の栽培も 1 年に 2 回できるようになりました。しかしながら今回ご紹介させていただいたように課題も多く残っています。稲の栽培方法やニワトリの増羽に関してはなかなか改善することができず時間ばかりを費やす結果となっています。今年こそは次のステップに進みたいと思います。

2013 年も引き続きご指導のほどよろしく申し上げます。

飯島